
基本科目・専門支持科目

報告者：金城 芳秀

教育及び実践の課題

教員によるインシビリティ（incivility）として、無礼で見下すような批評、コンピテンシーの不足、忍耐力の欠如などがある。一方、学生においては、授業における遅刻、居眠り、携帯電話の使用、個人の課題をグループで行うなどがあげられる。これらインシビリティは本学においても無くす姿勢・努力が必要であり、学生・教職員を問わず、一人ひとりが civility（礼節）を知り、行動し、よりよい教育環境の形成に責任を果たすことが期待される。

活用した論文の概要

Gallo のレビュー論文は、2005 年から 2011 年までに公表された文献を対象に、4 つの検索語「看護教育」「インシビリティ」「学術的不正行為」「カンニング」および「いじめ」で絞り込みを行い、最終的には 7 つの文献から、看護教育におけるインシビリティ、すなわち看護学生と教員による無礼な行動に関する研究の現状を紹介している。

学生が認識する「最悪の体験」として、他者がいる前で厳しく批判されること、馬鹿にされること、軽視される（けなされる）こと、自分のことを他者に漏らされることなどがあげられている。一方、学生に対する無関心、貧しいコミュニケーション、準備不足の授業、質の低い教授法などは、教員によるインシビリティとして認識すべきとされている。

インシビリティは様々な望ましくない行動を含み、学習環境を弱体化させ、学生や教職員の行動を貧弱化させ、暴力に至らしめると結論している。

教育及び実践への活用

今回、あらためてインシビリティを認識する場を設け、「沖縄県立看護大学教員倫理規範」の確認も併せて実施した。本規範では、「教員は学生一人ひとりを一個の人格として認め、その権利を擁護する。教員は差別的・侮辱的言動、報道・出版・教育の場で不適切とされる用語の使用、中傷誹謗、ハラメント等には十分注意を払い、これらを行わない。また、学生の個人情報の取り扱いにも十分配慮する。」と明記されている。シビリティポリシーを設けている大学はほとんどみられないが、本規範はこれを含むと考えることができる。

本学で継続すべき内容は、年度初めの教職員の異動に際しての情報共有と確認であり、同様に学生に対しても、授業での問題提起、新学期のオリエンテーションやガイダンス等での情報共有がある。今後も、学生が遠慮なく教職員のインシビリティを報告できる学内風土を作り上げる努力が必要である。さらなる授業の質向上と学習環境の強化を行うためには、教員自らコンピテンシーを高め、加えて、看護技術演習や臨地実習において学生が担う圧力（academic pressure）についても、教員はあらためて認識する必要がある。

参考文献*

Gallo JV (2012) : Incivility in nursing education: A review of the literature, Teaching and Learning in Nursing, 7, 62-66.
